

いばらき農業アカデミー
『ナシ「恵水」の高品質生産技術及び県育成有望系統の検討』の開催

令和元年10月23日(水)、園芸研究所において、いばらき農業アカデミー『ナシ「恵水」の高品質生産技術及び県育成有望系統の検討』を開催しました。茨城県梨組合連合会(秋季研修会)との共催で、当日は生産者等61名、普及・行政等関係機関25名の計86名の出席がありました。

現在、取り組んでいる「恵水」の高品質生産技術と育成中のニホンナシ新系統について、これまでの成果を踏まえた試験の進捗状況を紹介し、検討・意見交換をしました。今後の試験研究推進と産地における課題の解決に向け、有意義な検討会になりました。

○高品質生産技術の開発について

「恵水」のブランド展開に向けた高品質生産技術として、果実肥大から収穫果実重予測による摘果管理方法及び「恵水」の樹体ジョイント栽培適応性等について紹介しました。また、これらの成果については試験ほ場へ移動し、各試験樹の解説を交え、ほ場検討を行いました。

○ニホンナシの県育成新系統について

生工研で育成中の「恵水」に続くナシ有望系統「生研3号」、「生研4号」について、これまでの調査結果を踏まえ、果実特性を紹介しました。また、出席者には「生研3号」、「生研4号」を試食していただき、情報交換を行いました。

○総合検討・意見交換

出席者からは、「恵水」のブランド化を推進するためには摘果の徹底による大玉で高品質の果実生産が必要であり紹介された暫定の摘果基準は参考になる、樹体ジョイント栽培の1～2年目は多くの労力を要するが、樹形が完成した5年目には慣行の6～7割の労力で済むなどの意見をいただきました。

ニホンナシの県育成新系統については、農薬費の割合が増してきているなか黒星病抵抗性の新系統に対する期待が大きい、早生の品種を早く出してほしいなどの意見をいただきました。

○アンケート結果

今回の農業アカデミーに対する満足アンケート結果では、内容について十分満足、概ね満足が全体の93%でした。最も高い関心が寄せられた内容は、ニホンナシの県育成新系統でした。



室内検討



ほ場検討